

「火祭り」をイメージ 純米吟醸酒新ラベル

「火祭り」新酒



国の重要無形民俗文化財・

幡豆町の「鳥羽の火祭り」をイメージしたラベルの純米吟醸酒「三河鳥羽の火祭り」に、新たに祭りのみそぎをスケッチしたラベルが加わった。製造元山崎合資会社（山崎厚夫代表社員、幡豆町西幡豆）が9日、ラベルを描いた西尾市の画家斎藤吾朗さん（写真右）を招いて発表した。

生酒と火入れ熟成酒の2種類で、これまでは燃えるたい

まつに男たちが突進する絵柄だけだった。今後は、生酒に新しい「みそぎ」の絵柄を、火入れ熟成酒は従来のラベルをそれぞれ用いるという。

生酒の新酒は12日から、火祭りが開催される来年2月初めごろまで、地元酒店で販売される。火入れ熟成酒は来秋からの販売になる。問い合わせは同社（0563・62・2005）。